

令和元年度の教育活動等に対する学校評価書

令和2年3月25日

学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園長 宮下友美恵
学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

- 1 幼児期の発達段階に即した教育環境を整え、子どもたちの自発的な活動をもとにして、生き生きとした意欲的な子どもを育てる。
- 2 楽しく豊かな生活経験を通して、個性に応じたそれぞれの能力の芽生えを伸ばし、健康的で明るい子どもを育てる。
- 3 様々な表現活動を通して、豊かな心と創造性の芽生えを育てる。

2 本年度の重点目標

- ・幼稚園教育において育みたい資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた幼児教育の実践
- ・3歳未満児の発達の理解に基づいた子育ての支援の推進
- ・安全管理の推進

3 評価項目に対する自己評価及び学校関係者評価結果

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価	具体的な取組と自己評価	評価	意見
「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を培うための教育実践の工夫	A	「幼稚園教育において育みたい資質・能力」についての理解を深めるために、全教員で幼稚園教育要領解説の読み込みや保育の振り返りを行った。 全クラスにおいて公開保育を実施し、教員が互いの保育を見合ったり、ディスカッションを行ったりしたことで、教育の質向上を図った。 昨年まで「造形展」として行っていたものを「出会い・発見・創造展」と名称を改め、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」をより明確に意識して実践できるよう、内容や指導方法の改善を行った。また、それらの取り組みについて、保護者に分かりやすく伝えるために、手紙や冊子の配布をした。「出会い・発見・創造展」後の保護者からのアンケートでも、「行事に向かう過程や当日の作品、教師の説明を通して、子どもたちの成長が大変よく分かった」との意見をいただくことができた。	A	「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を培うという、とても重要なことをしっかりと押さえて教育していることがよく分かった。 丁寧のひとつひとつのプロセスをおいながら、自ら学ぶ力や、周りの人と考えを出し合って新しいものを生み出すといった力を培っている豊田幼稚園の教育は、小学校教育につながるとても質の高い教育だと思う。 「出会い・発見・創造展」の取り組みは、子どもたちが身近なものに真摯に向き合い、興味を持って関わる中で生まれた疑問を自ら解決していこうとする姿が多く見られた。大人とは違う視点で、身近なものをよく見ようとするところが、とてもおもしろかった。「出会い・発見・創造展」の冊子は丁寧にわかりやすく書いてあり、子どもたちの思いや発想を先生たちが大切に受け止めてくれていることが伝わってきた。軍神社のくすのきを遊戯室の壁と天井を使って表現していたのは圧巻で、いろいろな作品を子どもが親に自信をもって説明している姿に感心した。
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を保育の中で捉え整理する	A	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について全教員で幼稚園教育要領解説を読み合い共通理解を図った。さらに、本園の教育課程や指導計画をもとに、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」のそれぞれについて、3歳児から5歳児まで、どの時期にどのような経験を積み上げていくことが大切であるか協議し合い、整理した。	A	親という立場で子どもの姿を振り返ると、まさにこの10の姿の一つ一つが成長したと実感できる。3年間の歩むノートを読み返してみても、子どもの成長がとても表れていて、先生たちが「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭に置いて、保育したり、歩むノートを書いているからだと思った。 豊田幼稚園の先生たちは、子どもたちを捉える目が確かなので、自信をもって保育してほしい。 特別支援教育の考え方としては、この10の姿を一人の子どもの発達の凸凹をみる視点として活用することも考えられるのではないかな。
3歳未満児の発達の理解に基づいた子育ての支援の推進	A	子育て広場、ぴよぴよルーム、プレイルームと親子が触れ合ったり、一緒に楽しんだりできる内容を意識し、子どもの発達に応じた活動を考え実施した。また、遊びの合間に「今このような成長が見られているので、この時期にはこのような経験が必要」というようなことを伝えるようにした。子育てについて一人で悩んでいる保護者もいるので、できるだけ気軽に相談できる雰囲気づくりを心掛けた。今年度は、本園の教員だけでなく、南部保健センターの保健師さんにも数回来ていただき、子どもの健康や生活習慣について専門的な立場から保護者の相談に個別にのっていただいた。今後は、園庭開放を含め、子育て広場の回数を増やし、子育ての支援の充実をさらに図っていきたい。	A	親としてはどうして自分の子と他の子とを比べてしまう。そのような親にとって、子どもの発達をよくわかっている先生や子育ての先輩である他の母親と話をし、大丈夫と言ってもらえるととても安心できる。プレイルーム等で子どもと一緒に過ごす時間はとても貴重で、親のリフレッシュの場にもなっていると思う。 子どもにとって、生まれてから3歳までの時期は非常に重要であり、人としての核となる。その時期に自分の手で育てることを選択した母親を応援したり、後押ししたりすることが幼稚園の役目だと思う。子育て広場やプレイルーム等のやり方を工夫したり、保健師さんの協力を得たりして、子育ての支援を充実させたことは、とても評価できる。

通園路の安全点検及び防犯対策の推進	B	通園路を複数の教師で歩いて安全点検を実施し、注意すべき箇所について通園路マップに記した。危険な箇所については、警察や行政に立ち会っていただき、改善方法を検討した。 防犯についての研修に参加し、通常の保育や園外保育、降園時の防犯対策について教師間で検討し合った。	A	通園路を歩いて点検し、マップに記したことはとてもよいことだと思う。警察や行政と一緒に点検し、改善策を立て、実行に移すということはなかなかできないことなので、この取り組みは大変評価できる。バス通園ではなく、子どもが自分の足で歩くことで、交通ルールや安全についても学ぶことができるので、徒歩通園はぜひ続けてほしい。
-------------------	---	---	---	---

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4 来年度取り組むべき課題

- ・子どもの育ちを捉えるための記録とそれを生かした教育実践
- ・園の教育について広く周知するためのホームページの改善
- ・子どもの健康・安全を守る

5 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。